

彩り～irodori～ 2年1組学級通信より

2年1組担任 井上由希子

質疑応答、講評を受けることが大切。

「発表」というと、真面目な皆さんは「失敗できない」と考えてしまいます。確かに、やるからには十分な準備をして臨むことが大切なのですが、初めから完成された発表をできる人はいません。ほとんどの人が、場数を踏むことで成長していくのです。一度発表してみると、自分では気づかなかった問題点を指摘され、気づかされます。人の発表を見ると、自分では気づかなかった着眼点をもつことができます。人前で話す緊張感にも慣れ、口頭発表のスキルも磨かれるでしょう。このように、気づきを増やし、スキルを高めることで、自然と取り組む意欲も向上してくるものです。皆さんに与えられたチャンスを自分の成長に活かしてください。まずは、11月13日（火）中間発表会に向けて、十分な準備をしていきましょう。4月から行ってきた探究Ⅱでの研究も、いよいよ発表段階に差し掛かっています。SGH 甲子園をはじめ、様々な団体が発表の場を設けていますので、案内していきます。

(10月30日(火) 第2学年探究 第15回)

○SGH 甲子園 開催日時：2019年3月23日（土） 応募締切：2018年11月22日（木）（校内締切16日（金）） 会場：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

エントリー項目：次の3つに応募することができます

①研究成果プレゼンテーション（発表15分・質疑応答5分）

※個人でもチームでも応募可（発表者は1名） ※1次審査あり（書類と動画） ※各校につき1件のみの応募可

②ラウンドテーブル型ディスカッション（ディスカッション45分・プレゼン10分・講評5分）

※「主張」「根拠」「論拠」を明確にしたうえでディスカッションを行う

※テーマは次の3つの中から1つ選ぶ

〈テーマ1〉日本が女性の社会進出を進めるにあたっての課題と解決策

〈テーマ2〉グローバルな人材を育成するために必要な日本の教育改革

〈テーマ3〉死刑制度は廃止すべきか否か

※「根拠」に用いるデータは公的機関によって公表されたデータや学術論文などの信憑性の高いデータや情報を活用する

※「論拠」とは根拠と主張をつなぐ情報 ※参考文献 『議論のレッスン（生活人新書）』・『議論のルール（NHKブックス）』

※1次審査あり（書類） ※各校につき1件のみの応募可

③ポスタープレゼンテーション（発表5分×4回）

※1次審査なし ※各校につき1件のみの応募可（①or②に応募したチーム、人でも構わない）

※①or②に応募した場合に限り、第2候補チームの応募が可能



○甲南大学リサーチフェスタ 開催日時：2018年12月23日（日） 応募締切：2018年11月26日（月） 会場：甲南大学岡本キャンパス

○国際問題を考える日 開催日時：2019年2月11日（月） 会場：神戸ファッションマート（金海外国語高校も来日して参加予定）

○地域課題から世界を考える日 開催日時：2019年3月7日（木） 会場：丹波の森公苑 (昨年までは校内で知の探究コースのみの行事でしたが、学校行事になりました)

10月26日（金） 第1学年総合 第12回

先週、各クラスで情報交換した内容を、クラスを越えて話し合う機会を持ちました。



10月29日（月） 第3学年総合 第12回

各分野に分かれて、それぞれの講座が続いています。キャリア教育に関する講座では、京都市議員の森かれんさんが「なぜ政治にかかわるのか」と題してお話をいただきました。地方政治は分権化により、活性化しているのか。最年少の女性議員として、母として政令指定都市の議員活動を支えるものは何か…という内容でした。



10月31日（水） 第1学年探究 第12回

探究Ⅰ担当 土元 優一

8つの班に分かれ、今から約1年半かけて取り組んでいくグループ研究がスタートしました。今後は1グループに1名の先生がついて、指導、助言を行います。グループで研究することによって客観的・多角的に取り組めるというよさがあります。年度末にはそれぞれのグループ内での発表会を行い、『地域課題から世界を考える日』で発表をしてもらいます。そして、来年度はその研究を引き継ぎ、視点を世界へと広げながら内容を深めていきます。フィールドワークや学外での発表にも積極的に参加し、論文を作成します。さっそく、リサーチクエスチョンやテーマ設定で悩んでいる姿が見られました。確かにテーマ設定は研究の根幹にかかわる大切なものです。しかし、難しく(堅苦しく)考える必要はなく、高校生ならではのパワフルな研究となっていくことを期待します。

